

政治・経済

日程	大問	出題分野・テーマ	難易度
2月7日	I	人権保障と法制度	標準
	II	資本主義経済のしくみと経済における諸問題	やや難
	III	高度情報化社会における課題	標準
2月8日	I	近代憲法・日本国憲法における人権保障	標準
	II	国際社会と安全保障	標準
	III	現代の企業とその社会的責任	標準
2月9日	I	民主主義と政治のしくみ・日本の安全保障	標準
	II	戦後の日本経済・財政の課題	標準
	III	現代の企業とその課題	標準

＜出題傾向＞

昨年度と同様、いずれの日程も3つの大問から構成されており、マーク式の多肢選択問題38問から成る。大問はすべて1ページ～1ページ半程度の長さのリード文からはじまり、その内容に関係する小問12～13問で構成されている。2月7日と2月9日は大問2題が経済分野中心、1題が政治分野中心という構成、2月8日は大問2題が政治分野、1題が経済分野という構成であった。高等学校「政治・経済」の全範囲からまんべんなく出題されているが、全体としては経済分野からの出題がやや多かった。

設問形式は4択の正誤問題が中心であり、語句選択や年代並び替え、空所補充、グラフや表の読み取りも大問ごとに1～2題出題されている。

難易度は共通テストと同等レベルの問題が大部分を占めるが、正誤問題の中には最新の統計や政治動向など、やや細かい内容を問うものも含まれる。今年度は近年の日本の人口動態、日本の首相の政策、ウクライナ・ロシア情勢、フリマ・アプリの仕組み（エスクロー）に関する問題が出題されたほか、リード文中で時事的な内容が扱われている。

グラフや表の読み取り、簡単な計算を必要とする問題は、昨年度と同様いずれの日程でも出題されている。今年度は、品目別食料自給率、限界効用のグラフ、産業別就業者数、安全保障のジレンマ、企業の経営成績表、国民所得の年度間比較の表、一般会計予算の税収項目別グラフが問題に使用された。教科書に記載のない概念・語句に関しては、リード文や設問文にその説明があるため、これらの問題は特別な知識の有無を問うものではなく、受験生の統計に対する読解力・判断力を問うているものだとと言える。類似の問題を解いた経験や問題への慣れによって、正答率に差が出るものと考えられる。

＜学習対策＞

一部の時事的内容を除き、おおむね「政治・経済」の教科書に説明がある内容から出題されている。教科書の目次の中で学習すべき内容の全体像を把握し、巻末の「現代日本・国際社会の諸課題」やコラムなどにも必ず目を通してきたい。教科書学習のアウトプットとしては、過去問を解くことからはじめ、共通テストの過去問にも取り組むとよい。また、昨年度および今年度の傾向はセンター試験の問題に近いことから、センター試験の過去問で正誤問題の演習に取り組むことも勧めたい。演習に際しては、正解となる選択肢を導くだけでなく、誤文選択肢について誤りの箇所を指摘し正しく訂正する作業も同時に行うようにしよう。この作業は、問われやすく紛らわしい知識を整理することにつながる。

政治分野に関しては、憲法で規定された人権に関する判例、立法・行政・司法の権限としくみ、憲法改正の手続きなど、日本国憲法にかかわる内容は特に丁寧に取り組む必要がある。また、近年の内閣の政策や動向、国政選挙の結果や投票率についても整理しておこう。国際政治分野に関しては、現在進行中の紛争やその原因となった出来事について、やや細かい知識が求められている。今年度も出題されたウクライナ・ロシア情勢や、2023年10月以降激化している中東における紛争については、その動向や背景をまとめておくとよい。また、国際政治の「年代」も意識し、冷戦期の出来事や核軍縮の歩みなど、年代並べ替え問題に頻出の内容は確認しておきたい。

経済分野に関しては、単なる事項の暗記にとどまらず、事象の因果関係を説明できるようにしよう。2月9日の問題IIの問5にあるような円安・円高の原因と影響、問11にあるような不況時に行う政策などは、暗記するより仕組みを理解することで対応しやすくなる。また、毎年更新されるような統計は、最新の数値や変化の傾向、特徴的な変化が見られる年度の数値を把握しておくことを勧める。2月7日の問題Iの問1にあるような少子高齢化に関するもの、問題IIの問3にある国内総生産、2月9日の問題IIIの問13にある社会保障制度の動向などに加え、完全失業率や国際収支の動向なども把握しておこう。表やグラフの読み取り問題に関しては、経済分野での出題が多い。簡単な計算を必要とする問題も多いが、難易度は高くないため、演習を重ねて慣れておくことが肝心である。まずは過去問でどのような計算問題が出題されているかを確認したい。その上で、センター試験や共通テストの過去問で頻出の計算問題（比較生産費説、名目・実質GDP、国民所得の計算など）で演習を重ねよう。

時事的な問題（2月7日の問題Iの問1、問5（2）、問題IIの問5、問題IIIの問10、2月8日の問題IIの問5など）は例年出題されており、やや細かい内容を問う正誤問題が多い。教科書だけでなく、新聞などに目を通して普段から興味関心をもって時事問題を追っておくことが求められる。新聞などの「見出し」だけでも見る習慣を身につけておくと、効率よく社会の動向を把握することができる。また、最新のニュースについて易しく解説するコラムを毎日追うだけでも学習効果が上がる。

過去問に取り組む際は、必ず時間をはかって取り組んでほしい。問題数は決して多くないが、2月8日の問題IIの問4（安全保障のジレンマ）のように、時間をかけて丁寧に読み込む必要がある問題も少なくない。時間内に、正確に解いていくための訓練も行いたい。